

『型枠施工業務』

安全衛生のポイント

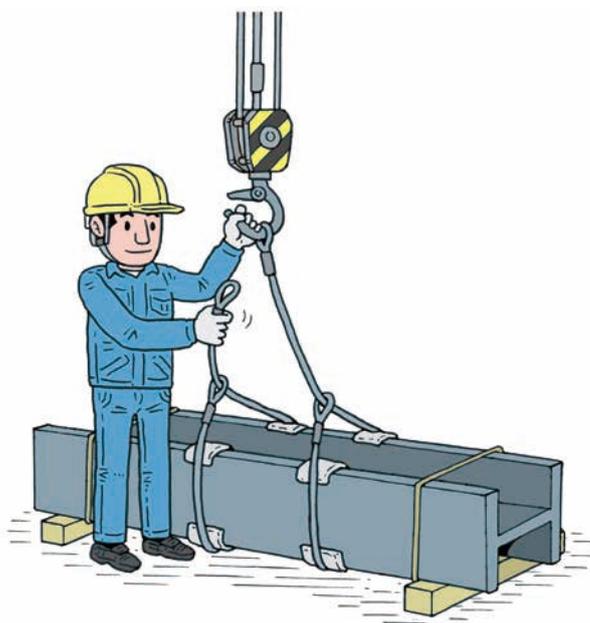
主な資格作業・その他

(1) クレーン作業、玉掛作業

① 移動式クレーンの運転資格

移動式クレーンは運転資格を持った人しか操作できません！移動式クレーンによる作業では、クレーンのつり上げ荷重に見合う資格かどうか確認すること。

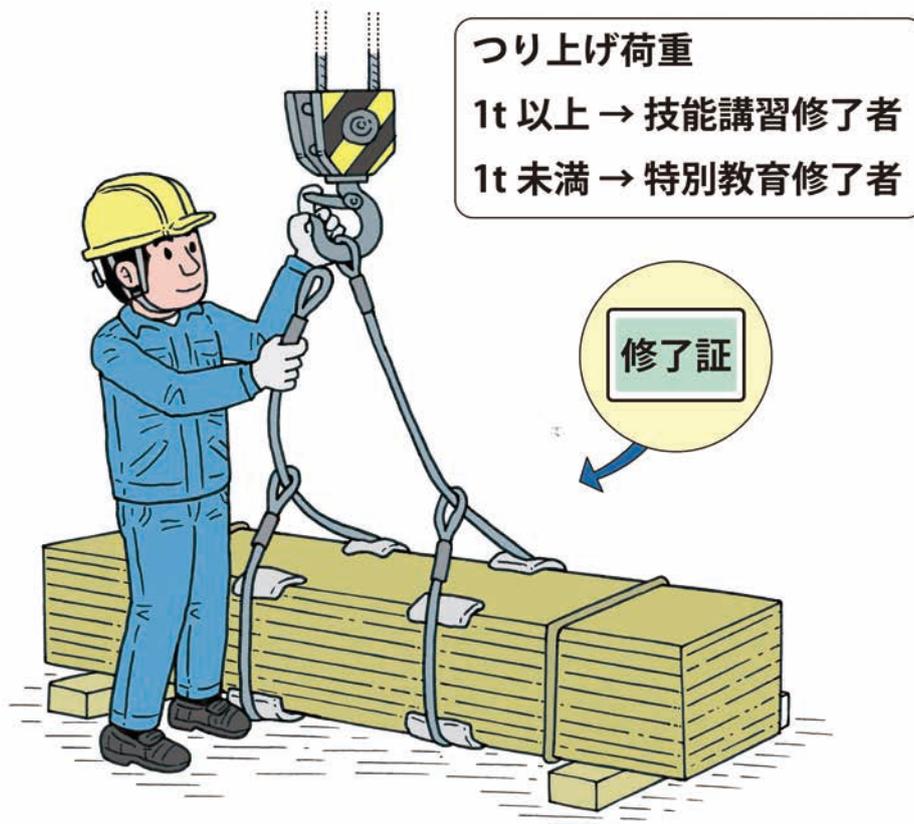
	免許	技能講習	特別教育
つり上げ荷重が5 t以上の移動式クレーンの運転業務	○		
つり上げ荷重が1 t以上5 t未満の移動式クレーンの運転業務	○	○	
つり上げ荷重が1 t未満の移動式クレーンの運転業務	○	○	○



(2) 玉掛作業の資格

玉掛作業を行うときは、次の資格が必要です。

	技能講習	特別教育
つり上げ荷重が1トン以上の移動式クレーンの運転の業務	○	
つり上げ荷重が1トン未満の移動式クレーンの運転の業務	○	○

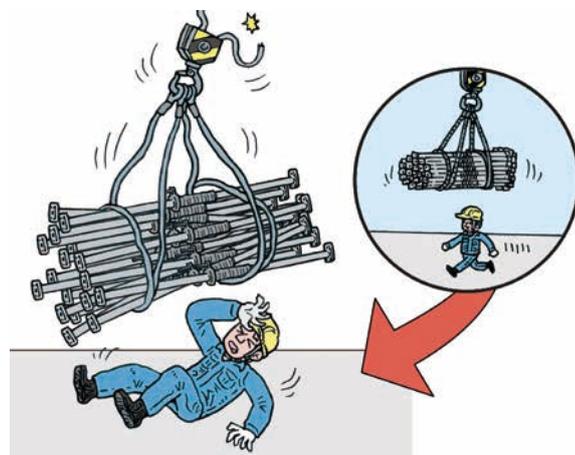


- “**つり上げ荷重**” とは、つり上げる荷の重量ではなく、使用するクレーン、移動式クレーン等のつり上げ荷重のことをいいます。

(3) クレーン作業では、つり荷の直下は立入禁止

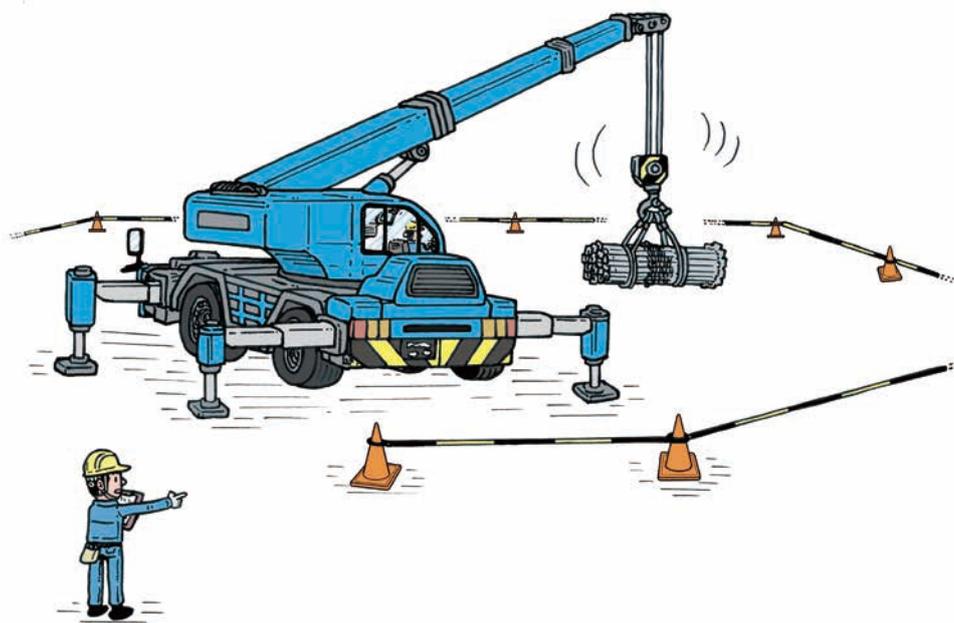
基本事項

1. つり荷が人の頭上を通過するような作業は、つり荷が落下する危険性があるので、どのような場合でも絶対禁止すること。
2. 作業者や周囲の安全を確保するため、作業範囲内立入禁止として作業指揮者を配置して安全を確保すること。



守るべきこと

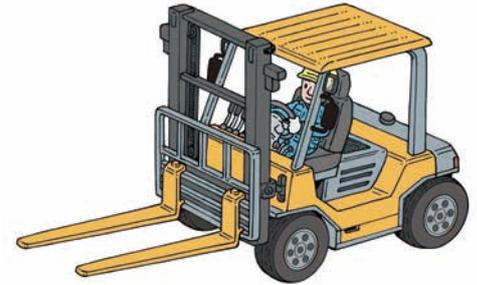
- ① 周囲全体を監視することができる監視人の配置を実施しましょう。
- ② 重機の周りには保護柵を設置しましょう。
- ③ 立入禁止区域を作り、立ち入らせないようにしましょう。



(4) フォークリフト作業

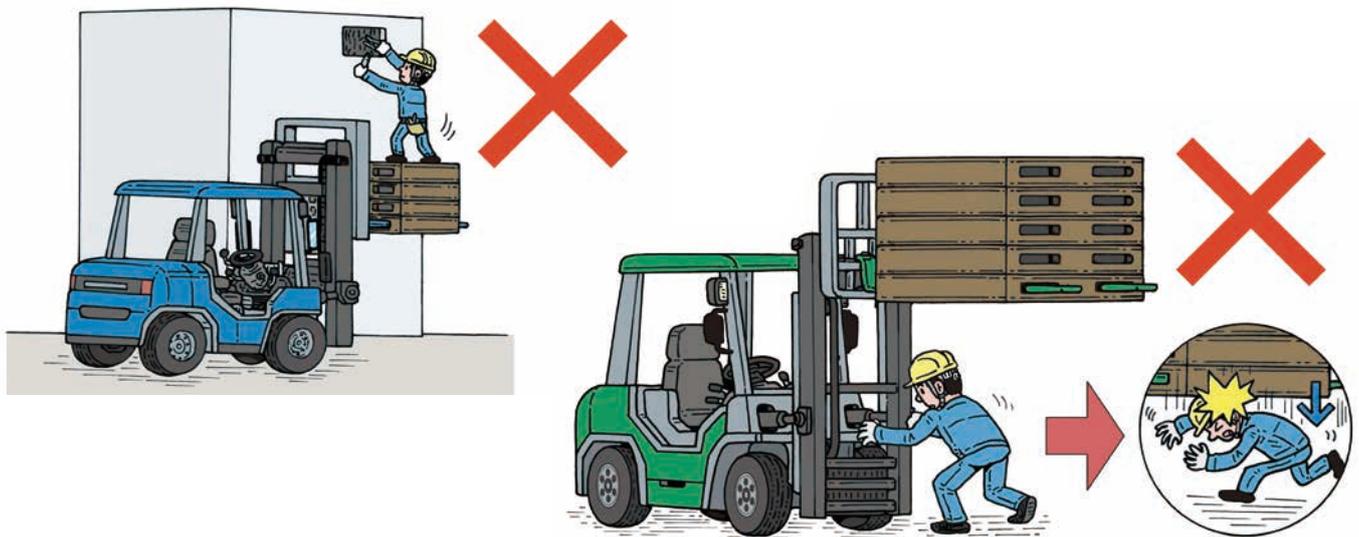
フォークリフトの運転には、次の資格が必要です。

	技能講習	特別教育
最大荷重 1 t 以上の フォークリフトの運転	○	
最大荷重 1 t 未満の フォークリフトの運転	○	○



守るべきこと

- ①フォークリフトの動線内には不用意には入らないようにしましょう。
- ②フォークリフトの正面、後方には入らないようにしましょう。
- ③フォークの上に乗って作業しないようにしましょう。
- ④フォークの下に入って作業しないようにしましょう。



(5) 高所作業車作業

高所作業車の運転には次の資格が必要です。

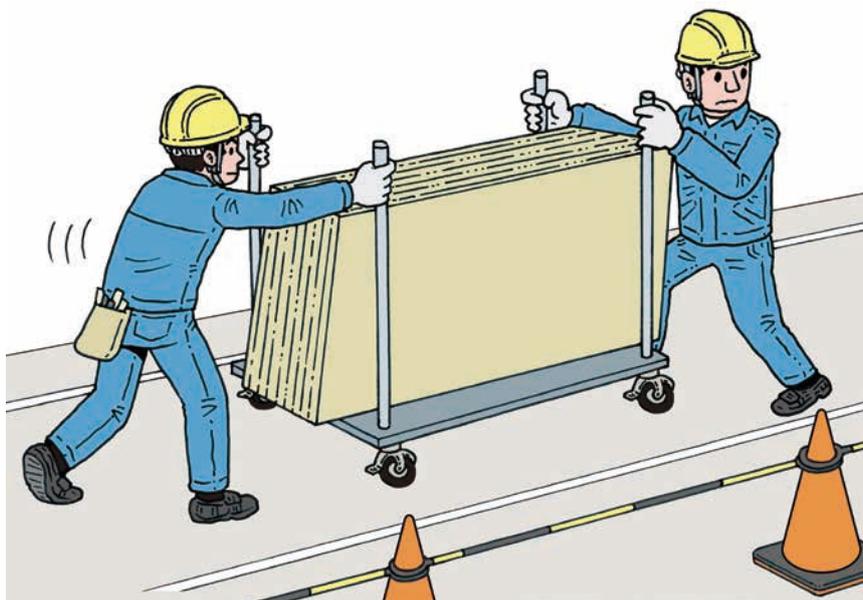


	技能講習	特別教育
作業床の高さが 10m 以上の高所作業車の運転	○	
作業床の高さが 10m 未満の高所作業車の運転	○	○

守るべきこと

- ① 使用前点検は点検シートにそって作業開始前に行いましょう。
- ② 移動は作業台を最低の位置に下降させてから行いましょう。
- ③ 作業床上では墜落用制止器具(安全带)を使用しましょう。
- ④ 乗移り行為は禁止です。
- ⑤ 作業車足元の作業床が水平であることを確認しましょう。

(6) 台車作業



守るべきこと

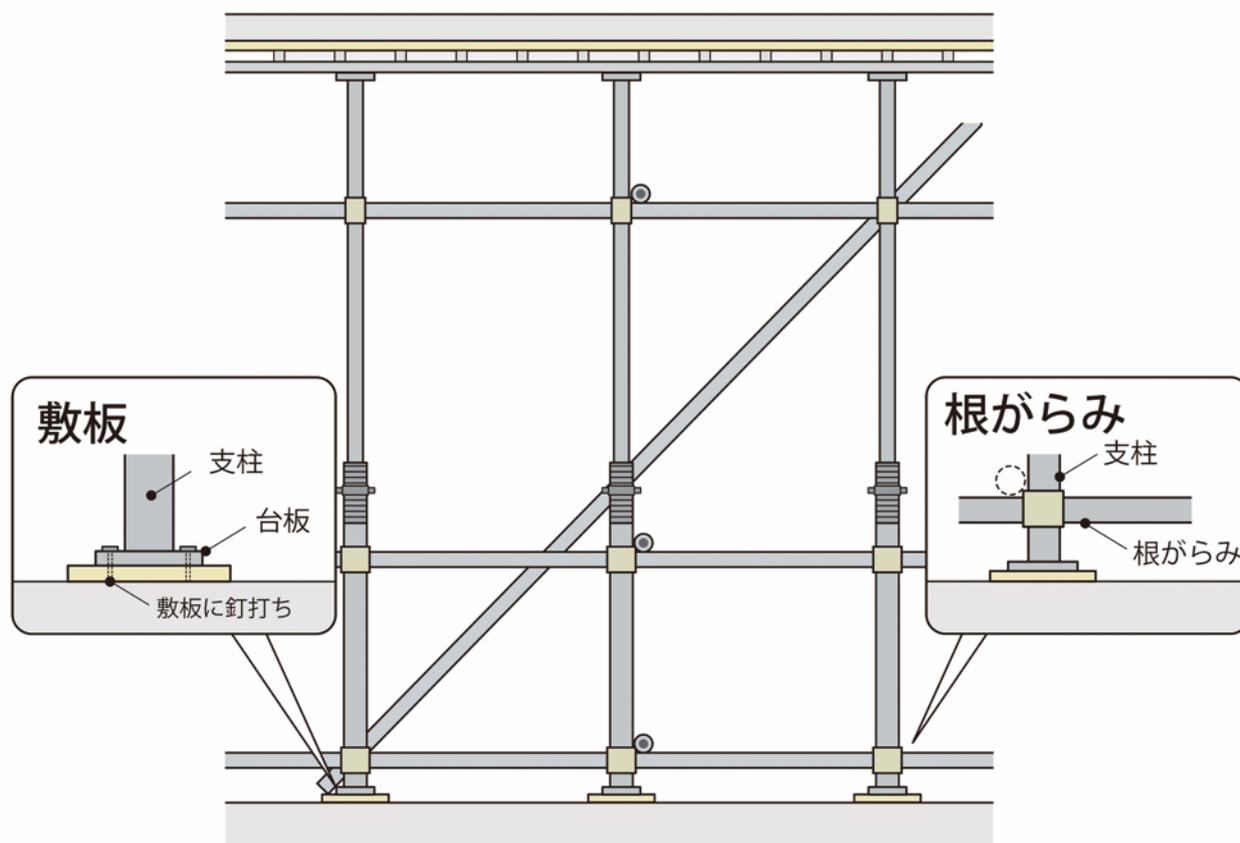
〔使用時〕

- ①許容荷重を守り、片荷や集中荷重等不安定にならないよう均等に積載しましょう。
- ②傾斜や段差のある場所の運搬は十分に注意しましょう。軟弱な地盤では使用してはいけません。
- ③積荷をキャンパーやロープ等でしっかり固定しましょう。運搬時には触れないようにします。
- ④移動時は後ろ向きに引いたり、上に乗らないようにしましょう。
- ⑤著しい凹凸面での使用または鋭利な突起のある床面での乗り越しはやめましょう。

〔停車時〕

- ・傾斜地での停車は絶対にやめましょう。
- ・静止時は車輪が固定されていることを確認しましょう。
- ・長尺物や重量物は2人以上で積み降ろしましょう。

(7) 型枠支保工



(型枠支保工組立て等作業主任者)

型枠支保工の組立て、解体の作業は型枠支保工組立て等作業主任者のもとで行います。

守るべきこと

- ①型枠支保工計画に不備があったり、施工不良などがあると倒壊、崩壊につながり、たいへん危険な災害につながるおそれがあります。
- ②作業主任者の指示のもと、作業手順をよく理解し作業しましょう。

(8) 酸素欠乏・硫化水素危険作業等

ピット内などの閉鎖的な空間では酸素欠乏症等の症状が発生し大変危険な状態に陥るおそれがあります。このような場所で作業するときは、酸素欠乏症等に関する特別教育を受ける必要があります。



守るべきこと

- ①作業手順の確認の後、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者の指示を待って作業しましょう。
- ②酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者から酸素濃度測定結果が良好な状態であるとの確認が取れてからピット内立入が許可されます。
- ③立ち入るときは、換気のため必ず送風機を設置し、常に外気がピット内を循環するようにしましょう。
- ④決していけないのが一人作業です。必ず相番者と一緒に作業しましょう。